



本誌への投稿、受理論文は、2018年の投稿数42、受理論文数16から2021年ではそれぞれ60、23と増加している。本誌は本邦で最も歴史があり、発行部数も多い精神医学系の雑誌であり、その訴求力がきわめて高いことは、大森哲郎前編集委員長（123巻1号）や著者の巻頭言（122巻3号）で述べてきたところである。

本誌に限らず、論文を投稿する際には、踏まえておくべき事項が多々あるが、いざ投稿となると、抜けてしまうことが多いものである。そこで、毎年本誌編集委員会では多くの方々に投稿していただくことを目的として、学術総会において、シンポジウム、ワークショップを開催してきた（2013年ワークショップ資料は学会ホームページ¹⁾に掲載している）。

2022年第118回学術総会（福岡）においても、ワークショップを開催し、会場に多くの参加者を得、有意義な内容を共有することができた。

黒木俊秀編集委員からは、論文投稿に際しての注意点を具体的に示すと共に、2013年の仙波純一先生発表の、「はじめに—方法—対象と方法—結果—考察—結語」の枠組みに沿っての記載のポイントを引用したうえで、興味深い架空論文を提示し、査読のポイントを説明された。

受理論文の著者（小池純子先生、田宮聡先生、田中英三郎先生）からは、「臨床での課題・疑問—研究計画—論文投稿—査読意見に対する心理的反応—修正過程」についてを詳細に報告いただいた。そのなかで、日本語で論文を発表する意義として、多くの精神科医や他の機関からの意見ももらえ、知見の積み重ねに貢献できること、客観的な視点をもつことができること、日常的に行っている臨床の意義が認識できることがそれぞれの経験から報告された。ま

た、本誌に投稿して良かったこととして、査読意見は詳細な教育的コメントであり、初稿のときには気がつかなかったことや不足していることへの具体的なコメントから論文の質が高まったことなどが挙げられた。

最後に、田口寿子編集委員から、投稿における倫理としてのオーサーシップについて問題提起・注意喚起があった。本誌投稿規程において、医学雑誌編集者国際委員会の基準に従い、「(1) 研究の構想もしくは立案について、または研究データの入手、分析もしくは解釈について、実質的な貢献をしている。(2) 原稿の起草または重要事項に関わる批判的改訂に関与している。(3) 最終原稿を承認している。(4) 研究のいかなる部分についても説明責任を持ち、正確性あるいは公正性に関する疑問が寄せられれば、適切に調査し、解決する」と明記している。投稿者が陥りがちな行為を説明し、適切な著者資格に向けた方策を示された。

以上、有意義なワークショップであったことから、2013年と同様に学会ホームページ²⁾にその内容を掲載した。ぜひアクセスし、一読いただきたい（なお、田口委員の発表は論文化される予定であり、論文掲載後にホームページにも掲載となる）。

細田真司

文献

- 1) 日本精神神経学会：2013年ワークショップ資料 (https://www.jspn.or.jp/modules/basicauth2/index.php?file=editorial_wordkshop11.pdf)
- 2) 日本精神神経学会：精神医学論文の書き方 (https://www.jspn.or.jp/modules/journal/index.php?content_id=5)